愛媛大学教育学部紀要　教育科学　第47巻　第2号　31～38　2001

大学生の価値観と充実感に関する研究
――「生活類型目標」と「心情モデル」について ――

佐　藤　公　代
（教育心理学教室）

（平成12年10月19日受理）

Study on the Sense of Value and Fullness in the University Student

Kimiyo SATOU

（問題と目的）

最近の大学生は，昔の大学生と違って，勉強しなくなった，目標をもてない，対人関係が下手，忍耐力がなくなった，集団行動が下手，指示待ち人間が多い，刹那主義的である，等と否定的なことばかり言われている。本当にそうだろうか。相対的にはそういわれても仕方のない行動がところどころにみえることがある。

そこで，大学生の価値観と充実感について調べてみようとした。

見田（1983）の「4つの生活類型目標」と大野（1984）の「心情モデル」を用いて，大学生の内面をさぐってみようとした。前者は，未来中心－現在中心の次元と，社会中心－自己中心の次元を組み合わせて，「愛価値」：現在中心で社会中心，社会の欲求を即時的に充足させる役割をもっている。「正価値」：未来中心で社会中心，社会の欲求を長期的に充足させる役割をもっている。「快価値」：現在中心で自己中心，自己の欲求を即時的に充足させる役割をもっている。「利価値」：未来中心で自己中心，自己の欲求を長期的に充足させる役割をもっている。

後者は，充実感・生きがい感は青年の信頼，自立，連帯によって，そして，しらけの気分は不信，甘え，孤立によって説明されるという西平（1979）の「心情モデル」を発展させたものである。つまり，自信－自信のなさ，時間的展望－時間的展望の拡散という項目を付け加え，充実感気分を上底面に，退屈・空虚感を下底面にもつ三角柱であらわされている。信頼・時間的展望－不信・時間的展望の拡散，自立・自信－甘え・自信のなさ，連帯－孤立の3本の平行な辺（軸）によって支えられている。さらに，充実感気分の方向とアイデンテイテイ統合の方向が一致している。充実感・生きがい感が自我同一性統合の方向と対応し，退屈・空虚感が自我同一性拡散の方向と対応している。

本研究では，価値観と充実感との関連について調査する。

仮説は次の通りである。

（1） 4つの価値観の男女の順序は，「自己の利益」（女>男）>「将来への希望」（男>女）>「現在の充実」（女>男）>「社会への協力」（男>女）>となるだろう。

（2）「利」「正」の得点の高い人は信頼・時間的展望の得点が高いだろう。

（3）「愛」「快」の得点の高い人は不信・時間的展望の拡散の得点が高いだろう。

（4）「愛」「正」の得点の高い人は連帯の得点が高いだろう。

（5）「快」「利」の得点の高い人は孤立の得点が高いだろう。

（方　　法）

1）調査期日：1999年6月8日－26日

2）被検者：E大学生299名（男子110名，女子189名）

3）手続き：質問紙を用いて，一斉に行った

4）調査内容：

イ，価値観の尺度－見田（1983）の2次元の生活類型目標を参考に，現在中心－未来中心，自己中心－社会中心に関する価値観の項目を32項目にした。「非常にあてはまる」から「全くあてはまらない」の6件法とし，そのまま得点化した。

ロ，充実感の尺度－大野（1984）の充実感尺度53項目を用い，「非常にあてはまる」から「全くあてはまらない」の5件法とし，そのまま得点化した。

（結果と考察）

Table 1に価値観尺度の構成項目と因子負荷量，Table 2に各因子における信頼性分析を示す。

価値観について主因子法バリマックス回転による因子分析の結果，7因子が抽出され，固有値1以上のもの4因子を採用した。つまり，Table 1の通り，「将来への希望」「社会への協力」「現在の充実」「自分の利益」因子である。Table 2よりα係数は，信頼性が認められる。以上の4因子は，それぞれ見田の「愛」「正」「快」「利」の価値観に該当すると思われる。

Table 3に充実感尺度の構成項目と因子負荷量，Table 4に各因子における信頼性分析を示す。

充実感について主因子法バリマックス回転による因子分析の結果，13因子が抽出され，固有値1以上のもの6因子を採用した。つまり，Table 3の通り，「退屈・空虚感」「自立心」「希望・自信」「焦燥感・孤独感」「目標」「妥協・甘え」因子である。Table 4よりα係数は，信頼性が認められる。以上の6因子は大野の「充実感気分－退屈・空虚感」「自立・自信－甘え・自信のなさ」「連帯－孤立，もしくは自立・自信－甘え・自信のなさ」「連帯－孤立」「信頼・時間的展望－不信・時間的展望の拡散」「自立・自信－甘え・自信のなさ」の充実感にほぼ該当すると思われる。ただし，1つの因子に1つの軸が対応しているのではなく，複数の軸に対応しているものもあった。これは因子の数が多かったからかもしれない。

4つの価値観因子について，構成項目の合計得点を項目数で割り，各因子の1項目あたりの

Table. 1　価値観尺度　構成項目と因子負荷量

	番号	項　　目	第1因子	第2因子	第3因子	第4因子
将来への希望	18	自分に正直に生きていきたい	0.717			
	25	世の中はお互いの助け合いによって成り立っている	0.709			
	5	私は，周りの人々との関わりを大切にしている	0.685			
	23	みんなが好き勝手をすれば世の中は成立しない	0.632			
	4	しっかりと計画を立てて，豊かで安定した生活を築きたい	0.576			
	22	身近な人たちと和やかな毎日を送りたい	0.540			
	15	私は，目標実現のために苦労することをいとわない	0.513			
	12	自分の将来は，明るく楽しいものであると思う	0.440			
	21	将来のことはあまり考えたくない	−0.438			
	11	社会集団の中で交渉や協力を楽しみたい	0.418			
社会への協力	17	どんな役割でもよいから，社会の不幸な人々の役に立ちたい		0.393		
	2	世の中を良くしていくために，協力していくつもりだ		0.666		
	10	人のために役に立ちたいと思う		0.632		
	9	人々が自由平等になるために苦労するのをいとわない		0.583		
	32	社会を良くするために，ある程度自分を犠牲にしてもかまわない		0.553		
	31	人は，地域の社会生活に積極的に参加すべきだ		0.466		
	28	私には，生きていく上で目指す目標がある		0.461		
	20	私は，社会の一員であることを忘れずに生きていこうと思う		0.457		
現在の充実	30	その日その日が楽しければそれでよいと思う			0.720	
	26	将来のことについて考えるよりは，今無事に生活していることの方が大切だ			0.687	
	1	明日のことはわからないから，今を楽しく生きていきたい			0.603	
自分の利益	29	他に迷惑がかかっても出世したいと思う				0.648
	19	自分の幸福を求めるのに，多少他人が犠牲になっても仕方がない				0.642
	27	方法はとにかく良い結果を出したい				0.468

(21は逆転項目)

Table. 2　価値観尺度　各因子における信頼性分析（α係数）

	因　子	α　係　数
第 1 因 子	将来への希望	0.84
第 2 因 子	社会への協力	0.83
第 3 因 子	現在の充実	0.71
第 4 因 子	自分の利益	0.63

Table. 4　充実感尺度　各因子における信頼性分析（α係数）

	因　子　名	α　係　数
第 1 因 子	退屈・空虚感	0.92
第 2 因 子	自立心	0.83
第 3 因 子	希望・自信	0.84
第 4 因 子	焦燥感・孤独感	0.83
第 5 因 子	目標	0.81
第 6 因 子	妥協・甘え	0.68

Table. 3　充実感尺度　構成項目と因子負荷量

	番号	項目	第1因子	第2因子	第3因子	第4因子	第5因子	第6因子
退屈・空虚感	25	毎日毎日，変化のない単調な日々でつまらない	0.775					
	1	毎日の生活にはりがある	−0.758					
	24	毎日の生活に退屈している	0.750					
	2	生活に充実感で満ちた楽しさがある	−0.724					
	22	毎日毎日が空虚である	0.723					
	3	私は生きがいのある生活をしている	−0.641					
	23	なにをするにしてもむなしいと思う	0.542					
	4	生きている実感があり，生きる喜びを感じる	−0.522					
	26	今の自分になにか物足りなさを感じる	0.515					
自立心	45	生きていく上で自分の決めたことに責任がもてる		0.686				
	47	私は困難に直面しても多少のことではへこたれない		0.608				
	42	私は精神的に自立していると思う		0.588				
	52	いざとなると，どうしても人をたよってしまう		−0.578				
	43	私は独立心が強いと思う		0.568				
	44	自分の生き方は自分で決めることができる		0.567				
	53	自分の生き方を考えるとき人の意見に左右されやすい		−0.527				
	7	自分の信念に基づいて生きている		0.452				
	50	私はなにか困ったことがあるとすぐに投げ出してしまう		−0.434				
希望・自信	12	自分の周囲の人たちにとって私の存在は意味があると思う			0.587			
	34	今の自分が嫌いである			−0.568			
	13	私は社会や家族の期待にこたえていると思う			0.537			
	5	生まれてきてよかったと思う			0.506			
	6	今の私に誇りを感じる			0.500			
	33	なにをやっても私はだめだと思う			−0.483			
	10	私は価値のある生活をしていると思う			0.458			
	19	私には未来に明るい希望がある			0.435			
焦燥感・孤独感	29	今の自分のままではいけないというあせりがある				0.655		
	35	今の自分がなさけなくいやになる				0.601		
	27	自分が本当に求めているものがみつからないというあせりがある				0.552		
	28	自分の理想とはかけ離れた今の生き方に焦燥感を感じる				0.530		
	37	だれも私を相手にしてくれないような気がする				0.453		
目標	18	私には生きていく上で目指す目標がある					0.658	
	16	私は自分の将来に夢を持っている					0.655	
	17	私にはうちこめることがある					0.542	
	30	何をすべきかということが自分でもよくわからない					−0.406	
妥協・甘え	41	いっしょうけんめいにがんばってみてもしかたがないと思う						0.577
	40	毎日つまらないが今のままで別に不満はない						0.562
	48	自分の生き方や人生について真剣に考えたことなどない						0.487
	39	特別おもしろいこともないがつまらないこともない。人生こんなものだと思う						0.473
	49	私ひとりぐらいまじめにやらなくてもよいと思う						0.466

（−のついたものは逆転項目）

得点を算出した結果，「自己の利益」(6.36点)＞「将来への希望」(4.56点)＞「社会への協力」(3.98点)＞「現在の充実」(3.90点) の順になった。

価値観4因子の高低群と男女のカイ自乗検定を行った。

Fig. 1，2に「将来への希望」「自己の利益」男女の高低群の割合を示す。

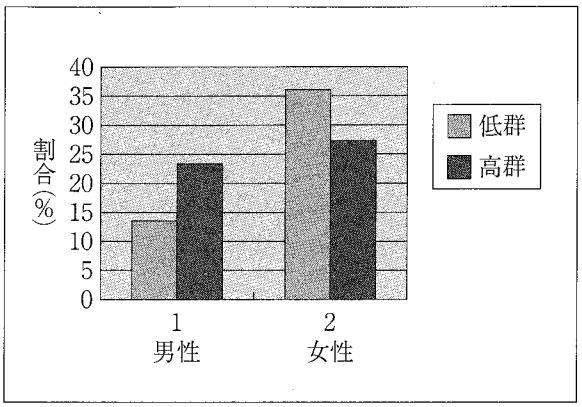

Fig. 1 「将来への希望」男女の低群・高群の割合

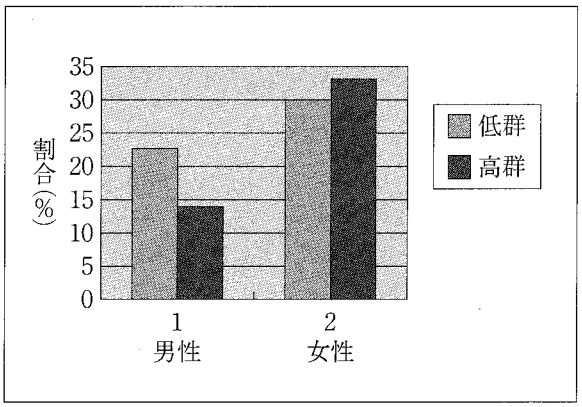

Fig. 2 「自己の利益」男女の低群・高群の割合

Fig. 1，2から，「将来への希望」において，1％水準で，男性は高群，女性は低群の方が多く，男性の方が「愛」の価値観を，そして，「自己の利益」において，10％水準で，男性は低群，女性は高群の方が多く，女性の方が「利」の価値観を大切にしている。「社会への協力」と「現在の充実」においては，男女差は認められなかった。よって，仮説（1）は支持された。

価値観4因子と充実感6因子を構成する項目の合計得点を算出し，それぞれ高群，低群に分け，価値観を独立変数，充実感を従属変数として，1要因分散分析を行った。Fig. 3－18に項目ごとの高群，低群のグラフを示す。

「将来への希望」と0.1％水準で有意差がみられたのは，「退屈・空虚感」「自立心」「自信・希望」「目標」「妥協・甘え」であり，1％水準では，「焦燥感・孤独感」である。「社会への協力」と0.1％水準で有意差がみられたのは，「退屈・空虚感」「自立心」「希望・自信」「目標」「妥協・甘え」であり，1％水準では，「焦燥感・孤独感」である。「現在の充実」と1％水準で有意差がみられたのは，「妥協・甘え」である。「自己の利益」と1％水準で有意差がみられ

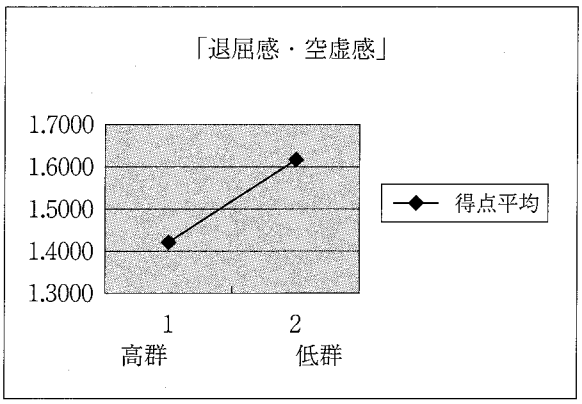

Fig. 3

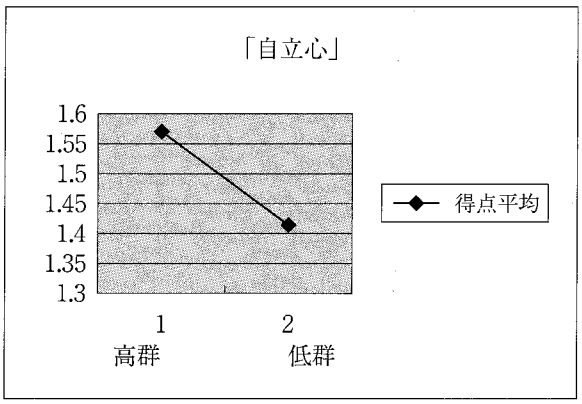

Fig. 4

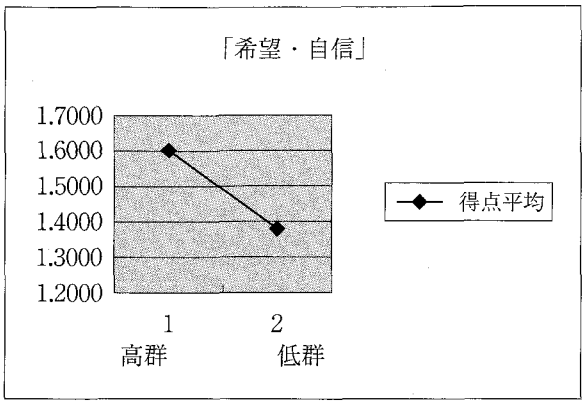

Fig. 5

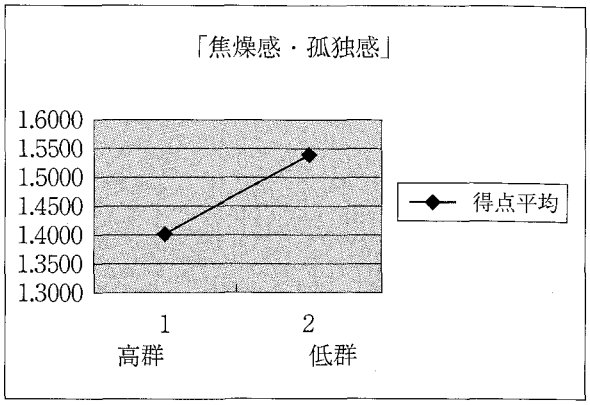

Fig. 6

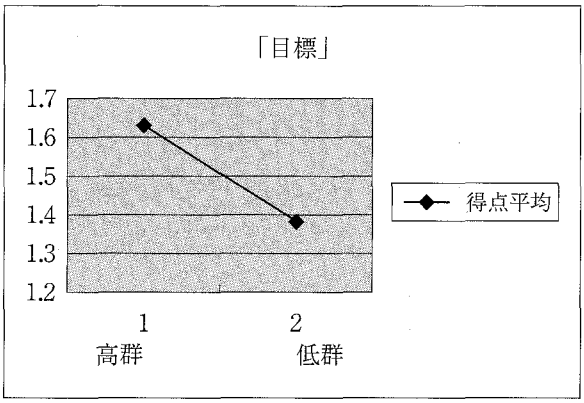

Fig. 7

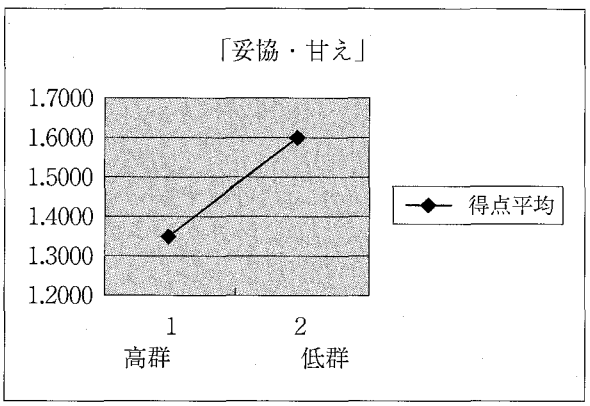

Fig. 8

たのは,「妥協・甘え」であり, 5%水準では,「希望・自信」「焦燥感・孤独感」である。

Fig. 3−8 より,「将来への希望」において, 高群が高いのは,「自立心」「希望・自信」「目標」, 低群が高いのは,「退屈感・空虚感」「焦燥感・孤独感」「妥協・甘え」である。

Fig. 9−14 より,「社会への協力」において, 高群が高いのは,「自立心」「希望・自信」「目標」, 低群が高いのは,「退屈・空虚感」「焦燥感・孤独感」「妥協・甘え」である。

Fig. 15 より,「現在の充実」において, 高群が高いのは,「妥協・甘え」である。

Fig. 16−18 より,「自己の利益」において, 高群が高いのは,「焦燥感・孤独感」「妥協・甘え」, 低群が高いのは,「希望・自信」である。

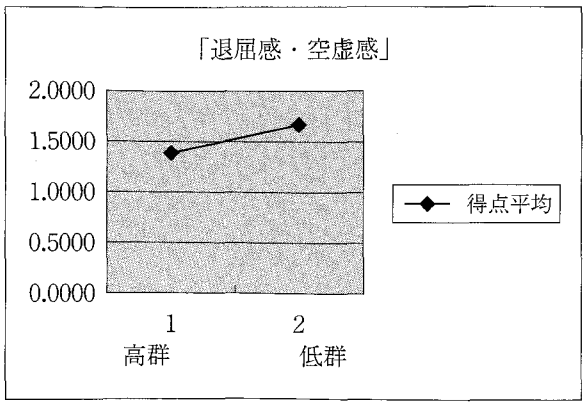

Fig. 9

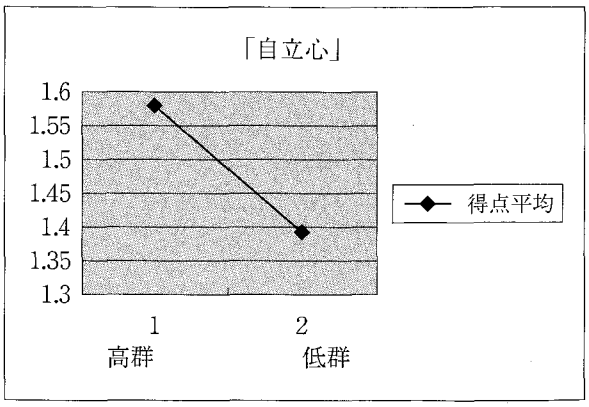

Fig. 10

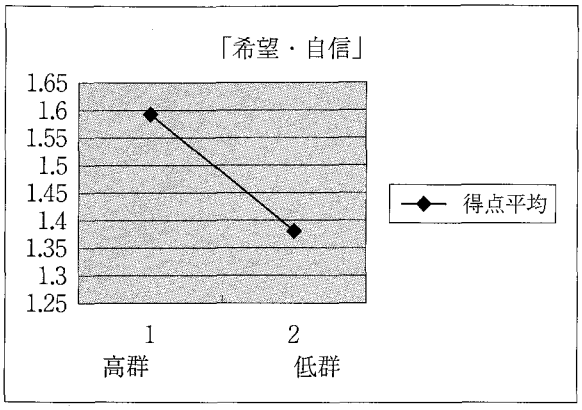

Fig. 11

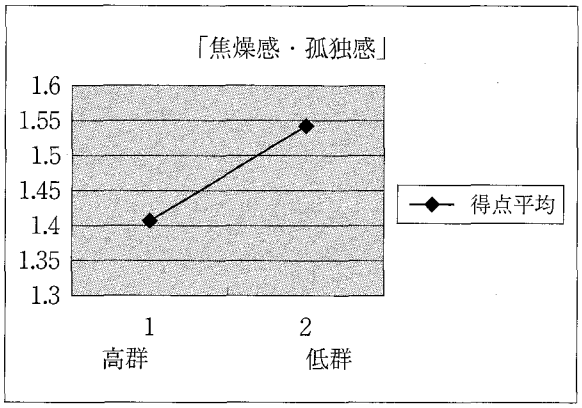

Fig. 12

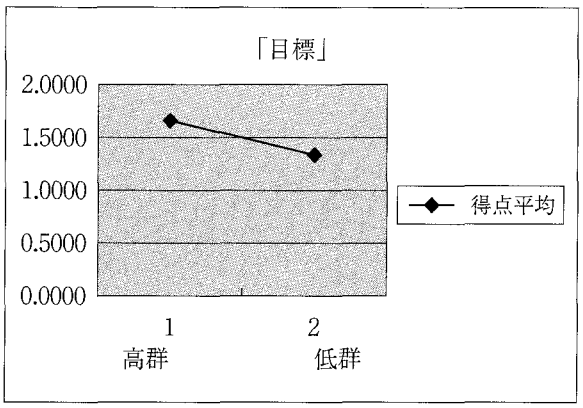

Fig. 13

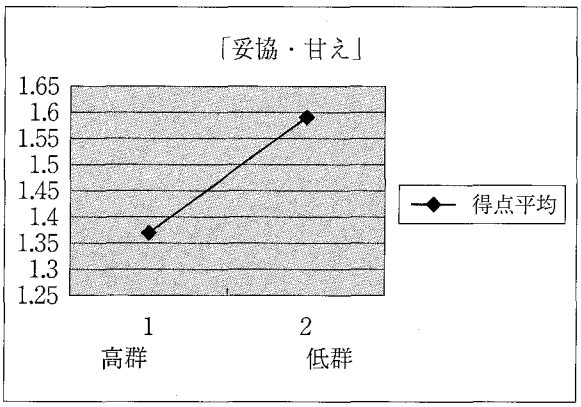

Fig. 14

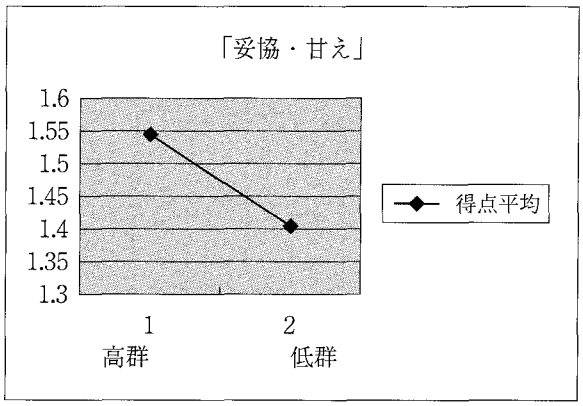

Fig. 15

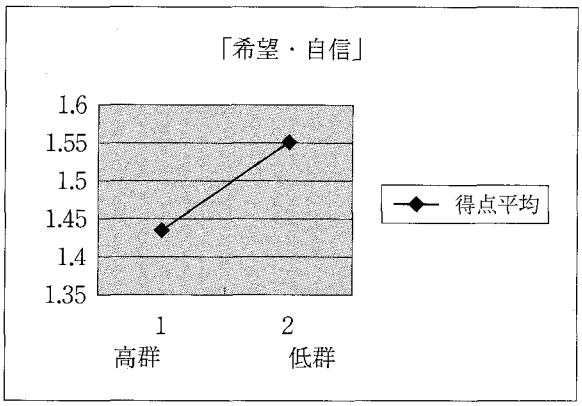

Fig. 16

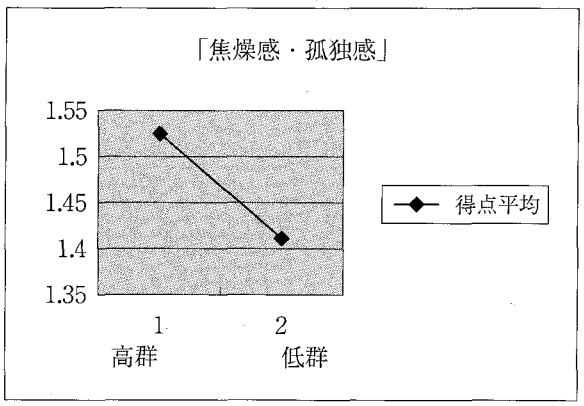

Fig. 17

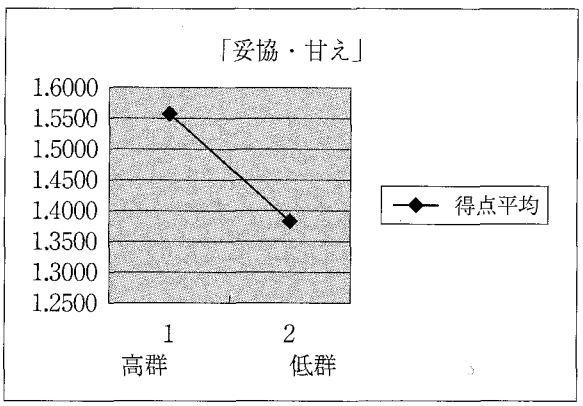

Fig. 18

以上より，仮説（2）は「正」において支持される。仮説（3）は支持されない。仮説（4）は支持される。仮説（5）は「利」について支持され，「快」については支持されない。

以上から明らかになったことは，次の通りである。

（1）価値観は「愛」「正」「利」「快」の4つに分類でき，被検者の大学生の価値観には「利」が多く，自分の将来のことを第1に考え，次に社会のことを考えている。

（2）価値観が充実感に及ぼす影響について，「正」の価値観が高い人は，低い人に比べ，時間的展望をより多くもっている。これは未来志向である。「愛」の価値観が高い人は，低い人に比べ，連帯をより多く感じている。これは社会志向である。「利」の価値観が高い人は，低い人に比べ，孤立をより多く感じている。これは自己中心的である。

（今後の課題）

「利」の価値観の高い人の方が「希望・自信」が低く，「妥協・甘え」が高い。これはなぜか。「利」の価値観は，「自己の欲求を長期的に充足させようとする役割」をもっているので，常識的には「希望・自信」が高く，「妥協・甘え」が低いと考えられがちであるが，結果は逆になった。

（参考文献）

見田宗介　1983　現代日本人の意識構造　第2版　NHK 世論調査部.

大野　久　1984　現代青年の充実感に関する研究－現代日本青年の心情モデルについての検討－　教育心理学研究　第32巻　第2号　100－109.

（注）

データ整理の濱邊雅氏，被検者の皆様には大変お世話になりました。心より感謝致します。